

令和6年度 第2回奄美市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和6年8月22日(木)9:30~11:30
開催場所	奄美市役所 5階大会議室
出席者	平田 宏尚, 加世田 勇, 正本 英紀, 川内 美和子, 福田 珠希, 下田 るり子, 福崎 充 吉村 喜美代, 稲田 ヨシ子, 肥後 和美, 三浦 和美, 垣内 真里恵, 松山 奈津美, 西谷 倫子 以上14名
欠席者	川畑 倫子 以上1名
事務局	石神福祉事務所長, 米田こども未来課長, 大茂こども保育係長, 米田子育てサポート係長 田代主査, 長井福祉政策課長, 岡村社会福祉係長, 師玉主査, 郷田保健係長, 岩多主査 畠山重点政策推進監, 田畑主査, 中田主査, 篤住用市民福祉課長, 文福祉係長, 松山主査 中村笠利いきいき健康課長, 國分福祉係長, 小出水学校教育課長, 對知地域教育課長 永田総務係長, 有恒社(計画策定業者)
〈議題〉	1 開会 2 協議 (1) 第2期奄美市子ども・子育て支援事業評価について (2) 第3期子ども・子育て支援計画骨子案について (3) 認定こども園への移行について (4) その他 5 閉会
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
<p>(1) 第2期奄美市子ども・子育て支援事業評価について</p> <p>資料1に基づき、第2期奄美市子ども・子育て支援事業評価を報告 質疑は、以下のとおり</p> <p>(委員)</p> <p>評価のなかでD評価が3点あるが、上手く進まなかった理由を説明していただきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>8ページ基本目標3子どもの健やかな成長に向けた支援8番乳児家庭全戸訪問事業について説明します。この事業は国が平成19年度から実施、奄美市は平成20年度から実施している。 D判定は、前年度が35件と少なかったためである。令和4年度までは例年150件前後であったが、令和5年2月に出産子育て応援交付金事業という新たな事業が開始になったことで、訪問時期が重なるため棲み分けの調整中により35件となっている。今年度初めに訪問をお願いしている推進委員と調整の話し合いをし、時期を改めて調整の段階に入っている。</p> <p>(委員長)</p> <p>確認ですが、交付金事業のほうで35件とは別に訪問はしており、例年の150件に近い訪問はできているという理解でよいか。</p>	

(事務局)

その事業も含めまして、全数の把握はできているのでそのような理解で大丈夫です。

(事務局)

10ページ基本目標4仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進(1)子育てしやすい就労環境づくり1
ワーク・ライフ・バランスについて、担当課の企画調整課、商工政策課は出席していないので事務局より説明
します。企画調整課のほうでは、啓発を行っている。令和3年度から5年度、市民団体のとの協働で男女共同
参画研修を開催したと報告を受けた。商工政策課のほうでは、ワークライフバランスに取り組む事業所の経費
支援及び啓発事業を通じて、市内事業所の職場環境改善により地域のワークライフバランスの推進を図った
が、実績はなかったとのこと。参考として、厚生労働省のサイト内で、女性の活躍・両立支援総合サイトが
あり、奄美市の44の事業所が一般事業主行動計画を掲載している。その中で仕事と家庭の両立を図る次世
代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定しているのが42事業所ある。それらについては
両立支援を図るということで計画をして事業を進めていると認識している。ワークライフバランスの推進や男
性育休の取得状況は各事業所の状況を把握していないとのこと。

(事務局)

保健福祉部重点政策のD評価ですが、16ページ(1)良質な居住環境の確保3番子育て・保健・福祉複合施設
整備・運営についてです。内容は中心市街地に「子育て支援」「生涯を通じた健康づくり・生きがいづくり」「多
世代交流」を通して、少子高齢化を取り巻く課題解決を行う拠点となる子育て・保健・福祉複合施設を整備す
ると計画に位置づけしていた。しかし、令和2年度以降に全国的な建設需要の高まりによって建設関連経費
の高騰や新型コロナによる生活様式の変化、市の庁舎、市民交流センターの建設といった大型事業の実施も
あり、改めて整備計画の見直しをすとした。令和4年度に、市民の健康づくりや子育て支援を一体的に果た
す施設として、以前よりもコンパクトで効率的な施設のあり方を検討すとした。現在検討中であり、健康づく
りでは保健センターのような機能を中心として、子育て支援では、親子連れが気軽に寄れて、一時預かりも含
めた施設など検討を行っている。取り組みとしては、検討段階なのでD判定とした。

(委員)

9ページの15番やちやぼう発達相談ですが、現在、年中組を対象に発達相談を計画しているが、個別相談は
少ない。ハードルが高く参加ができないと思うので、対象児を下げ、就学前の園児も対象にして、相談会の意
義を具体的に説明すると参加者も増えると思う。デリケートな問題を抱えている方へ幼稚園のほうから声掛
けはしづらいので、全体を対象へ説明する機会をもってほしい。

(事務局)

事業について説明します。令和4年度から保育所・幼稚園の園児に対して市の保健師が対応している。市の
健診が3歳児健診で終了で、就学までにお子さんと会う機会がない。年長ではフォローするのに遅いと考え、
年中を対象に実施している。個別で相談対応もしているが、ハードルが高く繋がらない方がいるのも実際の
声だと思うので、今後の参考にしたい。

(委員)

8ページ4番産後ケア事業について、最近徳洲会病院の産婦人科の件が発表されたが、去年の12月ぐらいか
ら宿泊型を実施していたと思うが、奄美市は何か考えているか。

(事務局)

産後ケアの宿泊型については、先日徳洲会病院の事務部長から話を聞いて、現在継続できるかは病院内
でも決定していないとのこと。市としては島内で産後ケアの宿泊型ができる体制づくりの協力を病院へお願い
している。

(委員)

質問ではないが、ニーズ調査を実施したので、その声と各事業の評価がどのように繋がっているのか。各事業の方はその声を捉えながら評価をしたと思うが、それが見えるとより具体的に次の計画に反映しやすいと思いました。

(事務局)

ご意見を参考にしたい。

(委員)

児童クラブについて、発達障害の子でのぞみ園と併用しているおり、のぞみ園はできているが私達は分からず、情報もない。年に2、3回交流や情報交換をやってほしい。子どもにどこまでやればいいのかと思いながら保育している。幼稚園や小学校と大島特別支援学校がやっているが、児童クラブは入っていないので、気を付けながらしていく必要がある。

(事務局)

療育を利用してる児童には相談員がついてサービスのプランを立てている。相談員を中心に、事業所、学校、学童と連携を図っているが、学童への声掛けが不十分なのではと感じた。相談員や事業所を含めて年4回程度行うモニタリングは、児童や保護者と対面で発達の評価をするので、年1、2回は学童にも参加してもらおう。また、療育のスタッフが出向いてアドバイスを行う保育所等訪問支援事業は学童へも実施可能なので、今後連携を図れるようにしたい。

(委員)

ママ友からの情報ですが、3ページ保育士の資質向上です。お子さんが先生に冷たくされている。発表会でも、そのお子さんだけ名前を呼ばれないと聞いた。子どもをそういった保育士へ預けるのは苦しいと感じた。研修を受けてスキルも大事だが、人間性も保育士へ教育してほしい。

(事務局)

保育士への苦情や相談窓口がこども未来課や各保育所の所長なので、相談しにくいとは思いますが、気軽にお声かけしてほしい。人間性の教育にも力をいれていきたい。

(委員長)

皆さまにご審議いただいた評価については、ご意見やご指摘を踏まえて、今後の取り組み内容の改善と併せて第3期の計画策定に向けて参考にさせていただきたいと思います。

(2) 第3期奄美市子ども・子育て支援計画骨子案について

資料2に基づき、第3期奄美市子ども・子育て支援計画骨子案を報告

(質疑なし)

(委員長)

質問がなければ、報告のあった骨子案で今後作業を進めていくということでご異議ないですか。

(異議なし)

(3) 認定こども園への移行について

(委員長)

認定こども園については、県が設置認可することになっているが、市としては認定こども園への移行について地元の状況を踏まえた意見書を県へ提出することとなっている。そこへ子ども子育て会議の意見も添えることとなっているので、みなさんのご意見を伺いたい。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料3-1～3-2に基づき、認定こども園(こしゅくこども園)への移行を報告
質疑は、以下のとおり

(副委員長)

朝仁保育園は、令和元年度に幼保連携型認定こども園に移行した。1号認定幼稚園枠で利用は、ほとんど保育園と同じ利用の仕方である。幼稚園枠に入った方もいたが、その後就労し、保育園と同じ利用をしている。幼稚園との差別化はできていると思っている。小宿保育園がこども園化した際に一番影響を受けると思うのが小宿幼稚園です。近い距離にあり、1号認定児を2施設で分けることになる。保育園の中は給食施設があり、提供がある利用の仕方になるので、仕事に就かれる等考えられると思われる。所長会のなかでは特に反対意見はありませんでした。国が目指していたこども園のかたちは、幼稚園の空いてる枠を使って保育枠を確保することだったと思うが、幼稚園がこども園になるには、給食施設を設置しなければいけないのが大きなハードルになり、幼稚園からこども園になるのは少なかったと感じる。代わりに保育園がこども園になる園が多い。鹿屋のほうでは、ほとんどの園がこども園化された。理由は、運営費が少し多く入ってくるため運営が楽になる。その分職員数の確保が必要にはなるが、職員の処遇改善にもなり、新しい事業にも広げやすくなるメリットもある。地域の保育の拡充に繋がりがいいことだと思う。下方地区は充足しているが、朝日校区は待機児童が多くいると聞いているので、拡充できる方策が所長会でも案がでてこない。手をあげるところがあるればと思います。鹿児島市の所長先生方から、定員に満たず経営に苦慮する方も増えており、奄美市は子どもが多くて羨ましいと言われている。事業のメニューも豊富で、大きな問題もなく、子育て施策が充実して、子育てがしやすい街だと思う。全国で合計特殊出生率が下がるなか、奄美市は1.84、徳之島2.1、伊仙町2.8で全国よりも高い出生率を保っているのは、子育てがしやすい街だと思う。どんどんアピールしていくことで、子育てに繋がっていく。こども園化で、新たなアイデアや子育てに関して広がっていくといい。

(委員)

幼稚園型のこども園では、朝日幼稚園は成功している。数年前から他の公立幼稚園も給食提供の案が出ていて、最終的に小宿幼稚園は叶わないまま、定員60名中在園児が19名という状況である。朝日幼稚園は給食センターから配膳されているが、小宿幼稚園と名瀬幼稚園も保護者のニーズが再三でていたなか、叶わないままこしゅくこども園の話がでてきているが、これまでの過程で既存の公立幼稚園へ施しができないままなのか。何年前前から保護者の声はあがっていたが、現在に至った経緯を教えてください。

(事務局)

平成26年度に教育委員会の公立幼稚園のあり方検討委員会で、朝日幼稚園は認定こども園とした。小宿幼稚園、名瀬幼稚園はその後状況をみて対応するとなった。令和元年度の子育て会議にて、朝日幼稚園の認定こども園化及び小宿幼稚園、名瀬幼稚園の3年保育を決定した。幼稚園全体のことはあり方検討委員会、保育所に関しては保健福祉部のあり方検討委員で結論していく。大きな計画のなかで検討するが、現在のところはなと理解している。

(委員)

あり方委員会で、なぜ小宿幼稚園や名瀬幼稚園の保護者の声がここ数年出ていたにも関わらず、案が取り上げられなかったのか疑問である。保護者の声はどこにいったのかと思う。

(委員長)

あり方委員会の内容はこの場では確認できないが、福祉事務所となるのか教育委員会となるのかも含め受け止めていただきたい。

(委員)

私立幼稚園なので、影響があると思っている。私立幼稚園にも給食提供を要望したい。保護者のニーズとして給食の提供がある。2歳時の一時預かりもしているが、有料のため厳しい状況である。幼稚園と保育園に願書を出して、下の子は保育園、上の子は幼稚園という傾向もあって、定員割れが続いている。兄弟で同じ施設に入れたいの保護者も施設も同じ気持ちである。私立保育園にも給食の提供、未満時の子どもの補助をしてほしい。預かり保育は、就労証明がなければ有料となるので、幼稚園もだれでも通えるような改善を検討してほしい。

(委員長)

議題の小宿保育園の認定こども園の移行については、資料3-1を県へ提出しますので、子ども子育て会議の意見を付することとなっている。異議なしでよろしいか。

(異議なし)

(委員長)

異議なしとして、幼保連携型認定こども園こしゅくこども園の設置について了承すると付して、担当課から県へ提出をお願いします。

続きまして、幼保連携型認定こども園かさりこども園について報告となります。かさりこども園は公立のこども園なので、県への認可申請が異なるため意見書の提出は不要となるので、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

資料3-3に基づき、認定こども園(かさりこども園)への移行を報告

(質疑なし)

(4) その他

資料4に基づき、その他 策定及び円卓会議概要スケジュールを報告

(委員長)

保育人材確保に特化した会議は初めてであり、12月までに提言を検討している。提言など立て込むため、計画の素案の検討が来年1月などにずれ込むことがありえると認識でよろしいか。

(事務局)

その認識でよろしいです。

(委員長)

子ども子育て会議の重要なテーマでも保育人材確保があるので、計画に反映していただきたい。

次回の会議においても、ご協力をお願いします。

会議終了